

2022年度 稲盛科学研究機構（InaRIS） フェローシッププログラム 募集要項

公益財団法人 稲盛財団

稲盛財団では、下記要領で2022年度稲盛科学研究機構（Inamori Research Institute for Science: InaRIS）フェローシッププログラムへの募集を行います。

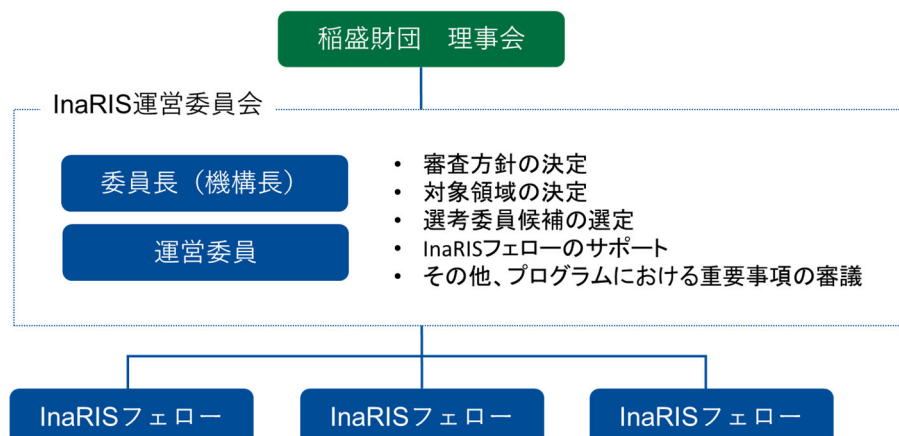
1. InaRISフェローシッププログラムの趣旨

本プログラムは、「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」という稲盛財団創業者 稲盛和夫の理念に基づき、基礎科学の研究者を長期的に応援し、さらには、将来的に日本の科学を牽引する人材の育成を支援することを目的としています。選ばれた研究者は、1年あたり1,000万円の研究助成を10年間にわたって受けるとともに「稲盛科学研究機構フェローシッププログラムフェロー」（InaRISフェロー）の称号を名乗っていただき、自身の実績に立脚しながら、たゆまぬ探究心に基づいた長期的な視野で挑戦的な研究を推進し、新しい分野の開拓、発見や発明によって、研究者としてより一層飛躍することを期待します。InaRISフェローシップは、研究課題だけではなく、研究者の持つ志や熱意、そして未知なる領域へのあくなき挑戦心、すなわち「人」そのものを応援する制度です。

2. InaRISの運営

InaRISはキャンパス・建物を持たないネットワーク型の研究機構（仕組み）です。稲盛財団は、個人単独の力だけではなく、交流によって生み出される創造力も重要視しています。つまり、InaRISフェロー同士を繋げ、切磋琢磨する場を作ります。InaRISの運営については、運営委員会が審査方針の決定、選考委員候補の選定、フェローへのサポートを行います。フェローの選考は運営委員会とは別に設けた選考委員会により行われます。フェローは自らの所属する大学・機関で研究活動を行います。運営委員会のメンバーや、他のフェローとオープンな意見交換も行いつつ、研究を推進していきます。

InaRIS 運営体制



3. 募集対象

① 対象とする研究

2022年度は『「物質・材料」研究の前線開拓』に関係する研究を対象とします。

人類は、古来、天然物から有用な諸材料を得る方法を案出し、道具に加工し、用いてきました。20世紀の量子力学の確立以降は、超伝導体・半導体・磁性体・有機分子など、様々な物質の本質が解明され、多様な材料や素子が創られ、情報技術やエネルギー分野などで広く活用されてきています。

炭素など単元素からなる物質でも、結晶構造や形状によって多彩な性質を示しますが、複数元素からなる物質には無数の種類があり、極めて多様な性質が現れます。また、異種物質間の相互作用が関与する素子や化学現象には、無限の多様性があります。この物質と材料の広大な未踏領域、ならびに、他分野との融合領域の開拓において、学術的な価値か、人や社会への有用性の観点で、卓越した研究提案を募集します。

研究の主要な狙いや目標の例：

- 新しい物質や構造、新物性や機能、新たな合成法などの創出や解明
- 物質や材料が持つ性質や機能の飛躍的向上
- 物質や材料が持つ弱点や課題の飛躍的低減
- 物質科学とバイオ科学・情報科学・計測科学などの分野との学際領域開拓

② 申請者の資格

下記a.からd.の要件をすべて満たす方とします。

- a. 日本に居住し、募集案内を送付した大学・機関に所属し、常勤で雇用されていること。(注1)
- b. 独立研究者で、大学所属の場合は准教授以上とする。
大学以外の所属の場合は上記に相当するものとする。
- c. 助成年度開始時に50歳以下であること。(2022年4月1日時点)
- d. 稲盛研究助成を受けている方は、その研究期間が2022年4月1日時点で残っていないこと。

注1：申請時および2022年度（2022年4月～2023年3月まで）に在籍していること。任期付きの職でも可。

4. 本制度の概要

① 採択人数と助成金額

2022年度のInaRISフェローは、募集対象から2名を選びます。フェローに選ばれた方には、研究費として毎年1,000万円を2031年度までの10年間にわたり助成します。また、毎年1,000万円の直接経費に加え、100万円を上限とする間接経費を研究機関に支払います。なお、本助成を稲盛財団の他の助成と重複して受けることはできません。

② 助成金の使途および管理

助成金は所属機関の定めにより適切に管理していただきます。あくまで本人の研究活動のために必要な費用としてご使用いただきます。ポスドクや研究を補佐するスタッフの人件費として使用することは可能です。また、以下の使途としては使用できません。

- ・フェロー本人、および申請者の親族もしくはそれと同等の親密な個人的関係者を雇用

した場合の人件費。

- ・研究目的に合致しないもの。
- ・間接経費による支出が適当と考えられるもの。

③ 研究期間

2022年4月より、10年間とします。

④ フェローの責務

フェローの責務は下記の通りとします。

- ・対象研究の論文には本人の所属に「Inamori Research Institute for Science」(注2)も記載する。

注2：本務先と併記 和文の場合は「稲盛科学研究機構」

- ・フェローに選ばれた年のフェロー授与式への出席。
- ・年に1度のアドバイザーボード(注3)への出席、進捗状況の報告。
注3：機構長および運営委員により構成されます。
- ・1年ごとの会計報告書提出。
- ・年に1度、稲盛財団による研究室訪問の受入れ。
- ・3年後および6年後に中間報告書の提出と、中間審査への参加。中間報告書は公開します。
- ・期間中に1回以上稲盛財団のアウトリーチ活動への協力。
- ・終了後1ヶ月以内に報告書を提出。報告書は公開します。
- ・終了後の成果発表会開催。

その他、稲盛財団の主催する行事への出席、出演をお願いすることがあります。

⑤ InaRISフェローの決定

2022年3月に決定し、対外発表します。

⑥ 助成金の贈呈時期

初年度は2022年4月に贈呈いたします。以後、毎年4月に振り込みます。

⑦ 助成の停止

育児休業等を取得される場合は、一旦助成を停止し、研究を中断する期間に応じて研究期間を延長することができます。

また、後出の不正使用、不正受給、不正行為について疑義が持たれた場合に助成を停止することがあります。当該停止の原因が解決または終了したと財団が判断した場合は助成を再開し、不正として確定した場合は後出⑨を適用します。

⑧ 助成の中止

以下の場合は助成を打ち切り、残金を返還いただきます。部下や同僚の方が残金を使用することは認められません。

- ・ 本人が死去、または病気等により研究の継続が著しく困難になった場合
- ・ 海外の研究機関に異動した場合
- ・ 本人が下記以外の研究機関に異動するなど、活発な研究活動が不可能になった場合
 - 1) 大学、および大学共同利用機関
 - 2) 国の機関、地方公共団体の機関・地方独立行政法人
 - 3) 独立行政法人・国立研究開発法人・独立行政法人等登記令別表に掲げる法人
 - 4) 「文部科学大臣指定の機関」のうち公益財団法人である研究機関

* 短期大学、高等専門学校は不可
- ・ 稲盛科学研究機構の名誉を著しく傷つけた場合

⑨ 不正使用、不正受給又は不正行為への対応

下記が判明した場合、助成金の一部または全額を返還していただきます。また、以後の助成は行いません。

- ・ 申請書類記載内容において事実と異なる記載があるなど、不正に本助成を受けた場合（不正受給）
- ・ 本助成以外も含め、研究費の不正使用があった場合
- ・ 研究活動において不正行為があった場合

不正受給、不正使用、不正行為の定義については科研費に準じます。

- ・ 稲盛科学研究機構の名誉を著しく傷つけた場合

⑩ 発明等に係る知的財産権の取扱いについて

本助成により生じた成果はフェローに帰属しますが、特許権等の知的所有権の取扱いについては、所属する研究機関の規程などに従ってください。

⑪ 研究倫理について

所属機関の研究倫理に関する各種規程や指針に従ってください。

5. 選考

① 選考プロセス

- ・ 選考委員会が、「稲盛科学研究機構フェロー申請書」に基づいて選考し、まず数名の候補者に絞り込みます。
- ・ 候補者に残った方には2021年12月25日に面接審査を行います。稲盛財団にて、選考委員に対して発表・質疑応答を行っていただきます。（代理出席不可）
- ・ 選考委員会によりInaRISフェローを内定します。
- ・ 2022年3月の理事会において正式決定いたします。

② 主な選考基準

「人」に助成するという趣旨をふまえ、以下の要素を参考にしながら、申請者の研究に対する姿勢、考え方も含めて、総合的な観点で選考されます。（順不同）

- ・ 独創性：独自の着眼点に立脚し、重要な発見や発明につながっているか。
- ・ 革新性：従来の考えに捉われない革新的な要素があるか。
- ・ 国際性：世界の潮流の中で国際的に認められる新規性と一般性を持つか。
- ・ 継続性：十分な研究実績を持ち、さらなる飛躍を意図しているか。
- ・ 連続性：研究内容に助成期間を通した一貫性があり、10年間の助成にふさわしいか。
- ・ 発展性：長期的視野に立った新しい分野の開拓につながるか。
- ・ 社会性：人類社会に貢献し人間の叡智を示すものであるか。

6. 申請手続

① 申請方法

当財団のwebサイトより、下記の要領にて申請してください。募集締切までにwebシステムを通じた申請手続が完了していない場合は、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。

- ・ まず、稲盛財団トップページ<https://www.inamori-f.or.jp>にアクセスし、「研究助成」から「申請」のタブを選択して画面下部のバナー「InaRIS 申請専用サイトへ」をクリック。
- ・ 画面のガイドに従ってマイページを取得。
- ・ マイページにログインし、申請書編集画面に進み、内容を入力後「保存する」をクリック。この際、申請者が複数の部署に所属していても、入力する部署は必ず1つとし、複数は入力しない。
- ・ 前の画面に戻り、「申請者表示」をクリックして生成されるPDFデータを印刷し、本人押印後、カラーのPDFデータをアップロード。(注4)
- ・ **以下で入力する文字はMSPゴシックの11ポイントを厳守のこと。**
- ・ 「研究者としてのアピールポイントおよび考え方」から「他の助成金・補助金・奨励金受領状況」までのページは、ワードファイルをダウンロードし、内容を記入の上PDFデータをアップロード。その際、**「他の助成金・補助金・奨励金受領状況」(14ページ) 以外はページの追加、レイアウト、余白の変更は不可。**
- ・ 推薦者ページ(15ページ)はワードファイルをダウンロードし、推薦者による必要事項記入、および推薦者の公印を押印後、**カラーのPDF**をアップロード。(注4)
- ・ 代表論文(10報まで)をアップロード。

注4：押印された原本は選考結果の通知が届くまで必ず保存してください。フェローに選ばれた場合は、この原本をご提出いただきます。

② 推薦者

本申請には、申請者の所属する研究機関の代表者(例：大学の場合学長)の推薦を必要とします。推薦者は、申請者が本要項の3の②の応募資格を有すること、すなわちa.日本に居住し、当要項を送付した大学・機関に所属し、常勤(任期付の職でも可)で雇用されていること、b.独立研究者で、大学所属の場合は准教授以上であること、c.助成年度開始時(2022年4月1日時点)に50歳以下であることと、稲盛財団より貴研究機関に支払う間接

経費は100万円を上限とすること、およびフェローの責務について確認の上、ご推薦ください。なお1機関あたり応募は4件までとします。所定の様式にて推薦書を作成し、推薦者の記名（印字、ゴム印も可）・公印を押印の上、アップロードしてください。推薦者の方におかれましては、本制度の趣旨をご理解いただき、ふさわしい方をご推薦いただきますようお願いいたします。

③ 照会先

申請者の研究活動について、よくご存じの方を2名挙げてください。申請者の所属機関の長である必要はありません。そのうち、少なくとも1名は日本語で本申請内容が理解できる方とし、それぞれの方の氏名、所属、連絡先(電話/電子メールアドレス)をご記入ください。選考の過程で、照会する場合があります。なお、照会先となることについての了解を予め取得しておいてください。

④ 募集期間

2021年5月21日（金）9：00から2021年7月29日（木）17：00まで
募集締切までにwebシステムを通じた応募手続きが完了していない場合は、いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。

7. 個人情報の取り扱いについて

申請書に記載された個人情報は、下記の用途に限り使用いたします。

- 選考（注5）および選考結果の通知。

注5：申請書は照会先の方に見ていただく場合があります。

- フェローに決定した場合の、対象者の氏名、所属、肩書き、研究題目、研究概要（注6）の公表、およびその後の各連絡。

注6：公表する研究概要は、改めて本人に作成いただきます。

- フェローに決定した方の推薦者への、フェロー授与式の案内状の送付。

8. その他

- ① 選考委員会での審査内容については、いかなるお問い合わせにも応じられません。
- ② 1機関あたり5件以上の応募があった場合はその機関から応募された全申請を無効とします。また、申請資格要件を満たしていない場合、申請書類に不備があった場合も無効とします。
- ③ 問い合わせ先

〒600-8411
京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620
公益財団法人 稲盛財団 助成部
Tel: 075-746-2543
E-mail: inaris@inamori-f.or.jp

- ④ 当財団の事業内容についてはwebサイト<https://www.inamori-f.or.jp> をご覧ください。